

令和元年6月11日

学校法人 三幸学園
名古屋スイーツアンドカフェ専門学校
校長 紅谷 尚幹 殿

学校関係者評価委員会
委員長 堀 潔

学校関係者評価委員会報告

平成30年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 堀 潔（CAFÉ&BAR Holy 代表）
- ② 荒木 浩（株式会社ビルネット 名古屋支店長）
- ③ 阿部 雄一郎（飛鳥未来高等学校 名古屋キャンパス 教務主任）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和元年6月11日（会場 名古屋スイーツアンドカフェ専門学校 応接室）

3 学校関係者委員報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

平成 30 年度 学校法人 三幸学園 名古屋スイーツアンドカフェ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 藤田 高広

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 堀 潔

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓、調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし、素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材、製菓、調理分野として「美味しくてかわいいスイーツとカフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材」を育成する(全ては、お客様の笑顔とありがとうのために)人物像とし、専門学校として社会、業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

完成年度終え 3 年目を迎えるが、今まで同様に教育理念である「技能と心の調和」に基づき、社会の動向、業界の現状を踏まえ、この 2 年で培った基盤をともに、より良い学習内容、充実した就職サポートを提供できるよう、以下の点を重視し教育を進めていく。

①前年度重点施策振り返り

1. TPO を意識した挨拶、返事の徹底(授業外での挨拶も含む)
2. 製造販売に伴う、衛生管理の徹底
3. 報告、連絡、相談の徹底及びコミュニケーション能力の向上
4. カフェ、製菓の技術力、応用力の更なる向上
5. 主体性を持たせるための働き掛け(アクティブラーニング他)
6. 学生のニーズに合った就職先の斡旋強化
7. 更なる退学率の低減

②学校関係者評価委員会コメント

- ・初年度から比較をすると生徒の技術力は年々向上しているように伺える
- ・外部関係者から見て、挨拶が非常に良く出来る学生が多いと感じる
- ・今年度より保険加入(学内店舗実習)し、リスクヘッジを高めた
- ・今年度より惣菜製造業の許可を取得し、今まで以上に産官学・地域連携を進める予定

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

①課題

・例年、創意工夫は行っているが、周知度を測ることは行っていない為、今後も継続的に学生、保護者に向けて、理念、目標の浸透を高める施策を進めたい

②今後の改善方策

・校内掲示物に関しては従来、姉妹校学生が掲載されているものを使用していたが、今年度からは本校の学生が掲載されているポスターに変更し、より注目してもらえる内容に変更した。当然、今年度も学校生活や授業を通じて理念、目標の浸透も継続したい。また保護者には参加頂ける行事はもとより、2年生の実習科目である「学内店舗実習」を活用し、積極的に理念、目標の浸透を構築する

③特記事項

・教育理念から人材育成をより体系化するべく三幸学園としてのビジョン、ミッションを設定し、全教職員へ浸透を図っている。業界ニーズをより深く理解し、日々の教育へ活かしていくことを目的に、関連企業、地域団体と産学連携、地域連携し、教育課程の共同編成やシラバスの共同開発を行い、業界の即戦力となる人材育成を積極的に実践している

・理念の浸透として、「体験入学」時から教育理念等は伝える機会を設けており、また、入学生保護者には「新入生保護者説明会」、入学者には「スタートアッププログラム」等を利用して理念の浸透を図っている

④学校関係者評価委員会コメント

・飛鳥未来高等学校では学校説明会等で、理念の浸透に繋がるような取り組みを行っている

・(株)ビルネットでは各会議等の場で理念の浸透に繋がるような発信を行っている

・個人店ではHP や SNS 等を活用し、周知を試みているお店が多い

・担任がホームルーム等を活用し、理念の浸透に繋がるような取り組みを意識していくべき

・授業等でも補える工夫を行うと、より一層浸透するのでは

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

- ・現教職員はもとより新たな教職員も巻き込み、益々の教職員一体化を進めていく
- ・職業実践専門課程の認定により、情報公開も適切化されているが、今後も様々な点において情報公開が求められることを想定し、今後も適切に開示を進めていく
- ・より良いものにしたという熱意から、コミュニケーションの機会が増加傾向であるため、無意味な打合せ等が頻発することによって、業務効率の悪化を招かないためにも意識して情報システム化を中心とした改善を進めていく

②今後の改善方策

- ・研修、定例会議において、学校運営に関係する情報等の提供機会を増やす
- ・業務フローを見直し、自動化できる内容に関しては情報化し、無駄な打合せ等を発生させないよう効率化を図る

③特記事項

- ・H29 年度より出退勤管理(時間外管理を含む)はシステム化されている
- ・H29 年度より給与明細表はペーパーレス化されている
- ・H30 年度途中より経費精算がシステム化されている
- ・今年度より食材発注がシステム化されている

④学校関係者評価委員会コメント

- ・(株)ビルネットでも現在の給与明細表はペーパーレス化されている
- ・(株)ビルネットでは資材発注を上長しか承認出来ない様にしている為、無駄な購入は比較的少ない
- ・食材発注に関しては管理者の更なる管理徹底が求められる
- ・教職員が食材発注に対して、より一層のコスト意識を持つ必要がある
- ・飛鳥未来高等学校では新しい職員が多い為、効率化より、まずは管理することから注力している
- ・効率化を図る前に、管理徹底ができていないか、注力できているかを確認することが重要

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

①課題

- ・更なる教育活動(質)の向上のため、各種研修を充実させる
- ・業界の現状を把握し、より学習効果の高い連携、取組みを実施していく

②今後の改善方策

- ・教員及び教育の質の向上を目的とした研修、講習会の機会を増やしていく
- ・収集した情報を多面的に評価し、教育課程の編成に活用していく仕組みを構築する

③特記事項

- ・研修内容は毎年検討し、より必要性の高い内容を実施している
- ・姉妹校交流を含め、情報交換もWEB会議等で積極的に実施している
- ・今年度、業界への訪問機会を増加させ、情報収集を強化する予定

④学校関係者評価委員会コメント

- ・(株)ビルネットでは資格取得による給料アップ制度がある為、社員の研修へのモチベーションも高い
- ・技術力向上だけでなく、教務力(学生対応)向上を目指せる研修を取り入れていくことも検討

・カフェ業態の定義が曖昧な為、カフェフード専攻に適した学びを提供するために、情報収集を強化し、求められる人材像等を再度把握することから始めると良いのでは

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- ・資格試験合格率の更なる向上
- ・より良い就職支援の確立(希望度や定着率の高い企業他)
- ・更なる退学率減少(退学者に対する分析、新たな対応策の検討)

②今後の改善方策

- ・資格取得の動機付けを重点的に実施し、上級試験、再受験を含め、チャレンジ意欲も醸成させる
- ・授業内の資格取得対策を強化するとともに、課外の受験対策講座も更に充実させる
- ・卒業生支援として校友会を中心とした活動を積極的かつ戦略的に支援することで全体的な把握に努める
- ・精皆勤の状況を中心にクラス状況報告を月に一度実施し、退学防止報告書を退学予兆の時点にて作成し、今後の傾向や対策に活用する

③特記事項

- ・平成 30 年度就職内定率 98%（平成 29 年度就職内定率 100%）
- ・SANKO リンク(卒業生ネットワークサイト)は設置済み

④学校関係者評価委員会コメント

- ・飛鳥未来高等学校は就職した企業や進学先から報告を貰うことが一般的な為、訪問等を実施しなくとも、情報収集ができています
- ・(株)ビルネットでは OB 会を実施し、積極的に交流する場が設けられている
- ・今後 SANKO リンクを積極的に活用していけるような取り組みを検討
- ・就職先の方や卒業生から得た情報を上手く管理できるツールを作成する予定
- ・遠方の就職先で、訪問が困難な場合は、まずは電話での対応で情報収集を実施する予定

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

①課題

- ・保護者との連携をより強化するための具体的な対策が必要と思われる
- ・卒業生への支援拡大（「独立開業支援」等の利用促進を活発化したい）
- ・中途退学者への支援体制づくり

②今後の改善方策

- ・定期的な保護者への報告を実施し、行事への動員策として、学内店舗実習を有効利用していく
- ・卒業生の来校をHP等に掲載し、卒業生とのつながりに努め、卒後教育の準備を進める
- ・中途退学者への進路アプローチを実施する

③特記事項

- ・複数名の教員による就職支援システムを構築（ふるさとサポート制度あり）
- ・経済的な支援として、特待生制度、学費応援制度等あり
- ・卒後は独立開業支援制度もあり、卒後教育として「製菓衛生師」のセミナー制度も予定している

④学校関係者評価委員会コメント

- ・金銭的理由等、退学せざるを得ない理由による退学者に対しては、就職斡旋等の支援体制をマニュアル化することを検討してはどうか
- ・単位制導入など、再入学し易い環境や、それに近いシステムがあれば、途中退学者への支援体制も整うのではないかと

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- ・施設、設備は特段問題ないが、更なる環境向上にはトレンドに応じた備品を備えていく必要がある
- ・基本的な防災体制は整っているが、より実践的な訓練や備えが必要と思われる

②今後の改善方策

- ・教職員から環境向上のため、必要な物をヒアリングし、充実させていく
- ・業界の現状に対応した職業教育を行うべく、教育ツールを企業と連携し開発、整備する
- ・より安全を追求し、防災整備、防災訓練を実施する

③特記事項

- ・更なる充実を図るため、毎年、産学連携、インターンシップの新規開拓、内容改善を行っている
- ・学生全員に避難指示書(ハザードマップ)の資料を配布している
- ・例年通り、一定量の備蓄を整備している

④学校関係者評価委員会コメント

- ・(株)ビルネットより助言を頂きながら、消防と連携し、防災訓練を実施する予定

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

①課題

- ・本校の教育理念や特徴を理解した志の高い新入生の確保
- ・引き続き定員充足による募集停止時の対応

②今後の改善方策

- ・高等学校への書面告知、ホームページ等による告知等の確立

③特記事項

- ・学納金の決定に際いては、他校の学費水準も把握して上で決定している
- ・一般社団法人愛知県専修学校・各種学校連合会が定めた内容を遵守している

④学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

②今後の改善方法

【中期計画】

一昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

①課題

- ・個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守を徹底して継続していく

②今後の改善方策

- ・研修や会議、掲示物等を通じて、全ての教職員に法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る

③特記事項

- ・平成 28 年度自己評価結果より公開を開始している
- ・今年度より「職業実践専門課程」認定校として情報公開を開始している

④学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

① 課題

- ・地域に対する公開講座の検討
- ・更なるボランティア活動の奨励、支援の強化（特に福祉施設への活動を強化）
- ・出向いて行く活動は一定の成果を収めているが、来校型はまだ検討の余地がある

②今後の改善方策

- ・学校独自のボランティア活動の計画、様々な団体から頂くボランティア案内を積極的に発信していく
- ・地域貢献に繋がる来校型の公開講座、支援を積極的に実施していく

③特記事項

- ・平成29年度より営業許可を取り、学内店舗実習を展開している（1階店舗実習室にて）
- ・平成29年度より児童養護施設支援、高等学校への技術支援等を強化している

④学校関係者評価委員会コメント

- ・高等学校、専門学校等の姉妹校と連携し、社会貢献、地域貢献できる取組みを実施予定

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	3

①課題

- ・昨年同様、今年度も留学生は入学しているが、未だ積極的な募集活動を行えていない現状がある
- ・留学生対象の就職斡旋を高める取組みが必要

②今後の改善方策

- ・留学生増員を想定した体制作り
- ・留学生に対する進路斡旋の強化及び情報収集(母国への就職斡旋他)

③特記事項

- ・開校初年度より「留学生学費減免入学」制度を導入している
- ・今年度より留学生にも「AO 特待生入学」制度を導入している
- ・今年度より日本語学校にも「指定校推薦入学制度」を導入している

④校関係者評価委員会コメント

- ・留学生採用を積極的に推進している企業様との関係性を構築していく

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

昨年度は総合的に見ると「飛躍の3年目」であり、非常に充実した1年であった。

その中でも学生満足度を示すアンケート結果や進路決定率、退学率(昨対比減)等の数値結果を鑑みると、上々の3年目であったと言える。しかしながら、学校として初の試みも多くあり、更に進化するため、今回も良質な課題や反省も併せて得ることができたので、次年度以降、更に安定した学校運営を展開するため、今ある課題に対して教職員一同、真摯に向き合い、特に以下の点に重きを置き、関係者の皆様にも変わらぬご支援、ご協力を賜りながら、更なる向上、改善に努めていく。

- ・教務力の更なる向上を図り、退学率の低減を確実に進めて行く
- ・総合的な演習である「学内店舗実習」の更なる充実を図る
- ・学生、保護者への理念浸透に一層の工夫を図る
- ・業界のニーズ、動向を把握し、より学習効果の高い産学連携を図る
- ・防災、安全に対する準備を更に具体的に高めていく
- ・学生募集の安定化を永続させる

以上